

2016年・12月度の活動報告

12月	1日(木)	食品安全セミナー・食品添加物について 日生協 MCA 無線訓練
	2日(金)	NPO とちぎ消費者リンク事務局会議 日生協災害対策担当者会議
	3日(土)	ECO テック&ライフとちぎ 2016
	4日(日)	〃
	5日(月)	理事・幹部職員定期学習会
	6日(火)	協同組合交流会
	7日(水)	社会福祉制度改革説明会/関東農政局来訪「消費者団体との意見交換会」説明
	10日(土)	いわき市四倉仮設住宅でのお茶会 NPOとちぎ消費生活サポートネット理事会
	13日(火)	定例理事会
	14日(水)	消費者カレッジ(国学院短大) NPOとちぎ消費者リンク事例検討会
	15日(木)	食の安全ネットワーク世話人会 第4回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA) 2016反省会
	17日(土)	NPOとちぎ消費者リンク理事会・学習会
	19日(月)	食と農をつなげる会
	20日(火)	消費者問題学習会 くらし部会学習会 性暴力・DV、サポートセンター開設について 消費者カレッジ(宇都宮共和大学)
22日(木)	消費者カレッジ(栃木県農業大学校)	

【12度の振り返り】

◇機関運営

- 13日 第4回定例理事会
- 6日 協同組合交流会

〈くらし部会の活動〉

- 3日～4日 ECO テック&ライフとちぎ 2016
- 19日 食と農をつなげる会
- 20日 性暴力・DV、サポートセンター開設について

◇行政関係

- 7日 関東農政局来訪「消費者団体との意見交換会」説明
- 15日 第4回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA) 2016 反省会

◇ネットワーク活動

- 1日 食の安全セミナー・食品添加物について
- 14日 消費者カレッジ(国学院栃木短大)
- 20日 消費者カレッジ(宇都宮共和大学)
- 22日 消費者カレッジ(農業大学校)
- 22日 消費者問題学習会

◇被災地支援、防災

- 1日 日生協 MCA 無線訓練
- 2日 日生協災害対策担当者会議
- 10日 いわき市四倉仮設住宅でのお茶会

◇学習会

- 5日 理事・幹部職員定期学習会

◇その他

- 7日 社会福祉制度改革説明会
- 10日 NPO とちぎ消費生活サポートネット理事会

〈NPO とちぎ消費者リンクの活動〉

- 1日 事務局会議
- 14日 事例検討会
- 17日 食品表示法学習会 / リンク理事会

以上

## 県連活動

### 1. 機関運営

● 12月13日（火）第4回定例理事会を開催しました。

議案は、報告承認事項として、「10月度、11月度活動報告及び決算報告承認」の件、10月21日開催の理事長専務会議及び熊本地震緊急募金結果等、

協議決定事項として、次月度以降の取り組み承認の件、2017年新春賀詞交歓会の内容、「被害者が訴える核兵器廃絶にむけた国際署名」の取り組み、及び平和首長会議が提案する『「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める要請書』の署名活動の提案、

報告事項として、財政検討委員会からの2017年度会費提案の答申、日生協中央地連報告、会員報告、「給付型奨学金制度の創設等を求めるアピール」への賛同団体登録、「原子力発電廃炉費用及び賠償費用に関する意見」を提出。議案は全て確認されました。

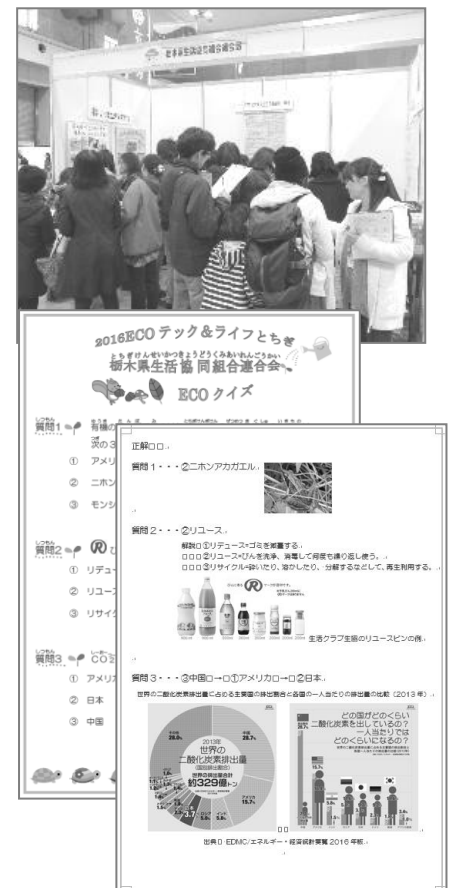
#### <くらし部会の活動>

● 12月3日（土）～4日（日）、ECO テック&ライフとちぎ2016に出展しました。2日間を通して、全体の来場者約4,000名、県連ブースへの来訪者500名以上（エコクイズ等の枚数から算出）、参加スタッフは延べ29名でした。

今年度のサブテーマは「広がれ エコ行動の輪」。参加者が体験したり学んだりした「エコ体験」を持ち帰り、生活の中で「エコ行動」の輪が広がることを願って開催されました。

生協連では、地域3生協がそれぞれの環境テーマをパネルで展示し、取り組みの説明やエコクイズを行い、回答者には生協の環境商品「コアノントイレットペーパー」を差し上げました。ご家族で立ち寄られる方も多く、生き物調査のパネルのカエルの写真をじっと見つめるお子さん、リユースビンを珍しそうに手に取り、説明に傾く参加者も見られました。環境のアンケートでは、エコ行動によって（例：電気ポットで保温しない等）どのくらいCO2が減るのかといった解説書をお渡し、来場者とともに環境について考える機会としました。

よつ葉	<p><b>テーマ 生物多様性</b></p> <p>パネル1「田んぼの生き物調査(上三川町の有機の田んぼ)」                      パネル2「田んぼが生き物を育て、生き物が田んぼを育てる」                      有機の田んぼで生息している生き物の写真を集めました。中には、ニホンアカガエルのように栃木県の絶滅危惧種に指定されている生き物もいました。</p>
生活クラブ	<p><b>テーマ リサイクル 【Rびん】びんにある ♻️マークが目印です。</b></p> <p>家庭からでるごみの容積の約60%が容器や包材によるごみといわれています。</p> <p>なるべくごみを出さず環境負荷を減らすために、リサイクル容器ではなく、リユース容器を優先して取り組んでいます。</p>
とちぎコープ	<p><b>テーマ とちぎコープ環境の取り組みと環境に関するアンケート</b></p> <p>昨年、組合員さんを対象に行った「環境に関するアンケート」と同じ質問を来場者にお聞きします。</p> <p>家庭部門からのCO<sub>2</sub>は1990年度比で59%増加し、暮らしの中で考えていかなければならないことが多くあることから、啓発活動の一環として来場者にアンケートのご協力をお願いし、①普段の暮らしの中で気を付けていること②これからやろうと思っていることをお聞きします。</p>



- 12月19日(月)、2016年度食と農をつなげる会を開催しました。JA女性会と生協から、計70名が参加しました。

今回は、同じ協同組合で活動する役員同士、地域に帰ってどのようにつながりを持ち活動をするか、を一つのテーマとし、互いの組織について「JA女性会=葛貫会長」「生協=竹内会長」が説明を行いました。続いて、宇都宮大学 教育学部 住環境・まちづくり研究室教授 陣内 雄次 氏より「地域包括ケア時代の協同組合とは一省察と展望―」と題してご講演いただきました。先生には次の二つのテーマ「私が考える共生社会とはどんな感じ?」「共生社会を実現するには?」を頂き、お話しの後 10 グループに分かれ、引き続き共生社会の在り方についてワークショップを行いました。



- 12月20日(火)、性暴力、DVについてと、被害者支援センターとちエールの取り組みについて、栃木県くらし安全安心課のご協力を得て学習会を開催しました。

DV 被害の現状では、女性の 4 人に 1 人が DV 被害を受けたことがある(H26 年度内閣府「男女間における暴力に関する調査」)こと、身体的、精神的、経済的、性的、社会的な DV があること等をお聞きしました。2015 度の相談件数は 2730 件、うち DV は 521 件、DV 被害者の一時保護は 56 名になり、同時に保護した子どもは 1 日平均 4.3 名になるとのことでした。

1. 性暴力について

- (1) 性犯罪・性暴力被害者支援について  
栃木県県民生活部くらし安全安心課  
主査 金子 百子 氏
- (2) とちぎ性暴力被害者サポートセンターの現状について  
栃木県済生会宇都宮病院  
地域連携課長 荻津 守 氏

2. DVについて

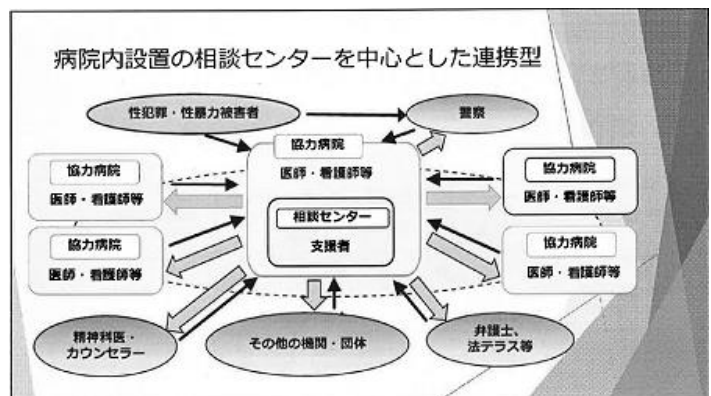
- とちぎ男女共同参画センター  
所長補佐兼相談支援課長 阿久津 好彰 氏

また、2016 年 7 月に済生会宇都宮病院内に県の機関として開所した「とちぎ性暴力被害者サポートセンター・とちエール」は、ワンストップ支援センターとして、医療機関と警察・臨床心理士会・認定 NPO 等の団体が連携協力して被害者のサポートにあたっています。

10 月末までの相談件数は 221 件、そのうち 10 代~20 代が 7 割、被害時に 10 代、10 歳未満の被害者が 5 割を占め、被害の低年齢化や性的虐待も問題となっています。

「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「自分さえ我慢すればやっていけるといった」等の理由で、3 人に 2 人が誰にも相談できずにいることや、関係者や周囲の心無い言葉・扱い等の 2 次的被害にも苦しめられていることなど、重い課題に胸が締め付けられるような時間でした。

被害に遭ってもどこに相談したら良いのかわからない被害者も多く、支援センター、支援団体の周知や、現状を知ることの必要性を感じる学習会となりました。



## 2. 県連学習会

- 12月5日(月)第4回 理事・幹部職員定期学習会を開催しました。講話の後ワークショップを行い、問題について深めました。

今回のテーマは、「社会福祉(保障)の現状と課題 今後及び動向について」。講師を佐野短期大学教授 山田 昇 氏にお願いしました。

- ① 少子・高齢化と社会福祉・保障の動向
- ② 社会福祉サービスを必要とする対象別(層)の現状と同行
- ③ 地域福祉推進の現状と対応

そして今後の展望について等、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

変化していく福祉制度の中、自分たちの暮らしている町で最後まで「**ふ**つうに**く**らせる**し**あわせ=ふくし」を実現するためには、行政任せではなく、自らも地域づくりに参加することが大切ということや、何を課題として活動していけば良いのか、今後の活動や業務に直接結びつけて考えられるお話を聞くことができました。



- ・ 高齢者の介護、子どもをとりまく厳しい環境を知ることができました。具体的な数字のデータも教えていただき分かりやすかったです。「予防福祉」という言葉を知り、人が暮らしやすい地域を作っていくことを考える方向を見いだせるように思いました。
- ・ グループ討議では、意見を出し合うことで自分にはない視点や気づきを頂きます。皆さんと意見を交換、共有し、連携、協力につながります。
- ・ 国の施策に期待できない現実なので、生協に何ができるか、個人としてできることは何か、学び続け活動に活かしていかなければならないと痛感しました。

(アンケートより)

## 3. 行政関連

- 12月15日(木)、第4回生物の多様性を育む農業国際会議 (ICEBA) 2016の振り返り会議  
8月の末に開催された「第4回生物の多様性を育む農業国際会議」の振り返り会議があり、実行委員を務めた会長理事が参加しました。
- 12月7日(水) 関東農政局の担当者が来訪し、来年度開催の「消費者団体との意見交換会」について説明がありました。

## 4. その他

- 12月6日(火)、2016年度・協同組合交流会が開催されました。

2012年の国際協同組合年を契機に、年に一度交流会を実施しています。今年度は19団体、56名の参加があり、交流を深めました。

### ■ 基調講演: 地方を元気にする! 地方創生

の在り方 白鷗大学法学部教授 児玉 博昭 氏

### ■ 活動事例報告

- ① 「実行性ある創造的自己改革の取り組みについて」 JA 全農栃木管理部部長 古沢伸明 氏
- ② 「しいたけ原木林再生の取り組み」 栃木県森林組合連合会 業務部部长 土屋栄一 氏
- ③ 「労働者自主福祉運動の発展に向けた取り組み」  
全労済栃木県本部 地域推進課課長 坂井雄一郎氏
- ④ 「この間の消費者問題の取り組みについて」  
栃木県生協連 NPO 法人とちぎ消費者リンク事務局長 弁護士 服部有 氏



- 12月10日(土) NPO とちぎ消費生活サポートネットの理事会が開催され出席しました。

### 〈NPO とちぎ消費者リンクの活動〉

- 12月1日(木) 事務局会議を行いました。
- 12月14日(水) 事例検討会を開催しました。  
今回の事例検討会では10件の事例を検討しました。検討委員は、弁護士9名、消費生活相談員4名、元消費生活相談員1名の計14名です。
- 12月17日(土)、食品表示法についての学習会を開催しました。弁護士さん相談員さん生協関係、その他併せて約30名が参加しました。また、同日理事会を開催しました。

#### ◆主催者代表挨拶

NPO法人とちぎ消費者リンク  
理事長 山口益弘

#### ◆講演 「食品表示法について」

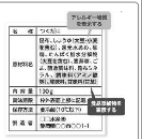
日本生活協同組合連合会  
品質保証本部 安全政策推進部  
部長 鬼武 一夫 氏



#### 「食品衛生法」の目的と主な表示事項(旧)

目的：飲食に起因する健康上の危害の発生を防止  
対象：容器包装に入れられた加工食品（一部生鮮食品を含む）

- 「名称」
- 「消費期限、賞味期限」
- 「製造者氏名」「製造所所在地」
- 「添加物」
- 「保存方法」
- 「アレルギー物質」
- 「遺伝子組換え食品」
- 「遺伝子組換え不分別」である旨



※「物字」は食品衛生法の外で規定する項目

## ネットワーク活動

### 1. とちぎ食の安全ネットワーク

- 12月1日(木)、栃木県・宇都宮市と共催で、平成28年度食の安全セミナーを開催しました。

栃木県政世論調査によると、食品添加物は常に食品の安全性について不安に思う項目の上位にあります。添加物の安全対策がどのように行われているのか情報提供を行い、質疑応答、意見交換を交え、食品添加物と食品の安全性について理解を深める機会としました。



基調講演「食品添加物の安全対策 ～国における取組について～」  
厚生労働省 医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全部  
基準審査課 添加物係 酒井 義瑛 氏

報告「栃木県食品衛生監視指導の状況について」  
栃木県保健福祉部生活衛生課 食品安全推進班 班長 八木沢 和夫 氏

### 2. とちぎ消費者ネットワーク

- 12月20日(火)、消費者問題学習会を開催しました。参加者53名でした。

成人年齢の引き下げが論議されていますが、消費者問題の観点から、未成年と成人との契約の相違点や課題等、また、今現在の被害例や今後考えられる被害等について、分かりやすく解説いただきました。

- 演題：「成人年齢の引き下げの議論に伴い、改めて未成年者の契約について考える」
- 講師：弁護士 服部 有 氏（消費者ネットワーク幹事）



- 今年度で4年目の取り組みとなる栃木県の委託事業「とちぎ消費者カレッジ」を開催。

1月18日開催の消費者カレッジが今年度最終となります。

日程	開催会場	講師	参加者
7月7日(木)	自治医科大学	それってマルチ商法かも…「簡単に儲かる話はありません！」 ～好奇心や軽い気持ちで甘い誘いにご用心～ NPO 法人とちぎ消費生活サポートネット理事 山田 英郎氏	110名
9月21日(水)	佐野短期大学	消費生活センターは身近な味方です NPO 法人とちぎ消費生活サポートネット理事 麻生 芳子氏	410名
10月25日(火)	宇都宮大学	奨学金も消費者問題～返還トラブル予防講座～ とちぎ総合法律事務所 弁護士 小倉崇徳氏	60名
11月17日(木)	作新学院大学 経営学部スポーツ マネジメント学科	インターネット時代のスマホのトラブル～その実態と対処法～ NPO 法人とちぎ消費生活サポートネット 理事 山田 英郎氏	58名
11月17日(木)	作新学院大学 経営学部経営学科	インターネット時代のスマホのトラブル～その実態と対処法～ NPO 法人とちぎ消費生活サポートネット 理事 山田 英郎氏	65名
11月28日(月)	宇都宮大学	“消費者クイズ”～キミが社会に出る前に～ 栃木県在住消費生活アドバイザー連絡協議会 会長 高岡 得郎氏 ・ 会員 伊藤 延子氏	63名
12月14日(水)	國學院大學栃木 短期大学	若年者が被害者となる消費者問題 須藤 博 法律事務所 弁護士 服部 有氏 132	132名
12月20日(火)	宇都宮共和大学	奨学金と消費者問題～将来ピンチにならないために～ とちぎ総合法律事務所 弁護士 小倉 崇徳氏 2	27名
12月22日(木)	栃木県農業大学校	インターネットトラブルについて～ネットを賢く使おう～ 栃木県在住消費生活アドバイザー連絡協議会伊藤 延子 氏	64名
1月18日(火)	作新学院大学 女子短期大学部	「消費者トラブル予防講座」～あなたのお金、狙われています～ とちぎ総合法律事務所 弁護士 小倉崇徳氏	

## 被災者支援活動 防災の取り組み

### 1. 東日本大震災、福島第一原発事故被災者支援の取り組み

- 12月10日(土)、いわき市四倉仮設住宅を訪問してのお茶会を開催しました。参加者9名、スタッフ11名でした。

毎年、寒い時期になると好評の「鍋」を用意しました。一人暮らしの方がほとんどで、ご自分では作ることが無いそうです。今回も「身体も心も温まるね」と喜ばれました。参加者の多くは3月の仮設閉鎖までここに残り、移動の準備を続けられるそうですが、被災日からの相次ぐ引っ越しに、ご負担の重さを感じました。次回は1月28日(土)です。

- 12月6日(火)、被災地の情報提供

みやぎ生協さんの報告「3.11を忘れない～被災地のいま・・・第40回 心と福祉と教育の専門家が学校を外側からサポート」をホームページにアップしました。

### 2. 防災の取り組み

- 12月1日(木)、日本生協連と隔月で実施しているMCA無線訓練を行いました。

2017年・1月度の活動予定

	4	日	宇都宮市・小山市賀詞交歓会
	5	日	栃木県県民生活部・農政部訪問
	5	日	連合栃木新春のつどい
	6	日	保健福祉部訪問
	10	日	日生協政策討論会 NPO とちぎ消費者リンク事務局会議
	16	日	第5回理事・幹部職員定期学習会
	17	日	栃木県生活協同組合連合会賀詞交歓会 常務理事会、財政検討委員会、
1	18	日	とちぎ消費者カレッジ(作新学院大学女子短期大学部)
月	20	日	栃木エコクラブ壁新聞審査会
	23	日	第2回福祉部会
	24	日	中央地連第3回運営委員会
	25	日	NPO とちぎ消費者リンク事例検討会議
	26	日	学習会(仮)有機農業と生物多様性 食の安全ネットワーク世話人会
	28	日	いわき市四倉仮設住宅でのお茶会
	30	日	第6回理事・幹部職員定期学習会
	31	日	栃木県食の安全安心推進会議 とちぎ消費者ネットワーク幹事会

今後の予定

- 3月4日(土) いわき市四倉仮設住宅でのお茶会
- 3月11日(土)12日(日)13(月)沖縄研修